

第 32 回 IACR Yokohama Meeting Enrico Anglesio Award を受賞して

伊藤 ゆり

大阪府立成人病センター がん予防情報センター
2010年10月に横浜にて開催された第32回国際がん登録学会において、35歳未満の若手研究者に贈られる Enrico Anglesio Award をいただきました。この名誉ある賞に、多数の応募者の中から私が選ばれた時には、本当に信じられませんでした。

受賞した演題は大阪府がん登録資料を用いて、大腸がん患者の治癒割合のトレンドを治癒モデルにより検討したもので、ロンドン大学衛生学・熱帯医学校の Bernard Rachet 先生や大阪府立成人病センターがん予防情報センターの先生方をはじめ、多くの先生方にご指導賜り、この賞をいただくことができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

この賞はラテン言語圏がん登録組織 (GRELL) の総会では数年前から行われていたそうですが、国際がん登録学会においては初めての試みでした。受賞から一年以内に論文化すると、賞金が2~3倍(アクセプトされた雑誌のインパクト・ファクターによる)になるという若手研究者にとっては大変モチベーションの上がる制度となっています。論文を書くのが遅い私としては、これを励みに投稿に向けて、大急ぎで論文にまとめています。

最後にこの名誉な賞に恥じぬよう、今後も地域がん登録資料に基づく科学的ながん対策に関する研究活動に精進したいと思います。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。



Enrico Anglesio Award プレゼンターと
受賞者、他の候補者

IACR2010 ポスター賞を受賞して①

早田 みどり

(財)放射線影響研究所長崎研究所

疫学部 腫瘍組織登録室

去る10月12~14日の3日間、神奈川県横浜市において「がん登録と社会との調和」をメインテーマとする国際がん登録学会が開催されました。今回で32回目となるこの学会は、5大陸を一巡する形で毎年さまざまな国で開催されています。2007年のスロベニア大会の折、2010年の日本開催が決まり、祖父江先生を中心とする組織委員会が立ち上がり、私もその一員として会の準備に携わってきました。円高にもかかわらず、会期中、250人を超える参加者が集まり、無事、3日間の会を終えることができました。

この会の特色のひとつにポスター表彰があります。ほぼ毎年、デンマークの Hans Storm 先生がプレゼンターとなり、ユーモアに富んだ軽妙なおしゃべりとともにポスター賞受賞者が決まっていきます。私は、1998年のアトランタ大会に始めて参加して以来、すっかりそのとりこになってしまい、毎年、ポスターを抱えてこの学会に参加するようになりました。

今回も147のポスターが出されましたが、がん登録室の副島氏が「早田先生にポスター賞を取らせてやりたい」とがんばって作ってくれたポスターは、我々らしい出来でした。それでも、ポスター賞を取れるとは夢にも思いませんでした。というのも、10数名の選考委員により、内容6ポイント、見た目4ポイントで選考するようになっていたからです。

3日目の学会終了間際に行われたポスター賞の発表で、ストーム先生の口から「Midori Soda」と名前を呼ばれても直ぐには信じられませんでした。開催国の人間がポスター賞を取ることに抵抗もありました。でも、理事長のエドワーズ先生から表彰状をいただき、素直に喜びが湧いてきました。11回目のチャレンジで手にした成果でした。なお、ポスターのタイトルは、“Decreased mortality from prostate cancer observed in Sasebo City, Nagasaki Prefecture with introduction of PSA screening” でした。